武蔵野自然塾の理事長、梅田彰さん（左）と副理事長の白田紀子さん（右）

市民のチカラ

市内で活躍する
さまざまな団体をご紹介します

特定非営利活動法人 武蔵野自然塾

自然を知ることの楽しさを市民に伝え続けて20年

武蔵野自然塾が発足したのは平成15年3月。自然の知識が豊富な有志が集まり、武蔵野の地下水の水源のひとつである「二俣尾・武蔵野市民の森」を、自然体験をして自然を知り、楽しむことのできる場とするため、環境保全・環境教育の活動を開始しました。

また、子どもたちが自然や生き物に触れ合えるよう、市教育委員会と協力し、市立小学校内にビオトープを設置。ビオトープの維持管理とともに自然観察指導の授業も年間50回ほど実施しています。

さらに、平成17年にオープンした「むさしの自然観察園」の管理・運営を市から請け負い、自然体験イベントや生物を飼育・観察できる場を提供しています。

現在、むさしの自然観察園には、生物多様性保全に配慮した約７００種類の植物が植えられており、さまざまな昆虫や鳥たちが集まる貴重な場所となっています。こうしたことが徐々に知られるようになり、近年は、世代を問わず多くの市民が来園するようになりました。

「最初は虫を見て『きゃー』と悲鳴をあげていた子も、観察するうちに『かわいい』『もっと見たい』と感想が変化し『なぜ、どうして』という質問が出てくるようになります。生き物の素晴らしさを実感できたら、成長したときに環境の大切さを理解できる大人になってくれるのではないかと考えています」と理事長の梅田さんは話します。

開催するイベントも多彩で、むさしの自然観察園では、初夏のゲンジボタルの観察会が大人気。イベントは園外でも定期的に行っており、山・川・森・海・空など自然を舞台に、子どもたちの好奇心を刺激し、探究心を育てる機会を積極的に設けています。

「今後も活動の場を広げていきたいと考えています。学校では体験できないような自然体験を、子どもたちにもっとしてもらえるといいですね」と副理事長の白田さん。

子どもたちの「楽しかった」「面白かった」という言葉と笑顔が、メンバーの励みとなり、次への活力になっているのだそうです。

特定非営利法人 武蔵野自然塾

発足当初は数名だったメンバーも、現在は約30名にまで増加。専属ではないものの、自然環境保全や自然環境教育のために尽力しています。むさしの自然観察園、市立小学校ビオトープ、二俣尾・武蔵野市民の森の管理などのほか、さまざまな自然体験プログラムを企画・運営しています。

平成 19 年に二俣尾で行ったキャンプイベントの様子

毎年行うゲンジボタルの観察会はすぐに予約でいっぱいに